

「湖の上を歩く」

2014年08月28日

マルコによる福音書6章45節～52節。それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、向こう岸のベトサイダへ先に行かせ、その間に御自分は群衆を解散させられた。群衆と別れてから、祈るために山へ行かれた。夕方になると、舟は湖の真ん中に出ていたが、イエスだけは陸地におられた。ところが、逆風のために弟子たちが漕ぎ悩んでいるのを見て、夜が明けるところ、湖の上を歩いて弟子たちのところに行き、そばを通り過ぎようとした。弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるのを見て、幽霊だと思い、大声で叫んだ。皆はイエスを見ておびえたのである。しかし、イエスはすぐ彼らと話し始めて、「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない」と言われた。イエスが舟に乗り込まれると、風は静まり、弟子たちは心の中で非常に驚いた。パンの出来事を理解せず、心が鈍くなっていたからである。

聖書には、考えられない奇跡が臆面もなく書かれていて、読む者は戸惑う。上記の奇跡は、主イエスはガリラヤ湖の上を歩いたという。聖書の著者たちは、私たちから見れば、途方もないと思える奇跡を通して、メッセージを表すことを当然としていた。奇跡そのものを信じる必要はない。そこに込められたメッセージを読み解くことである。その時、奇跡は私の身に起こった出来事であることが理解されてくる。

主イエスは、弟子たちを舟に乗せて、先に行かせ、ご自身は山に登って祈られた。一人になって、しばしば祈っておられるが、祈りが激しい宣教活動を支える力であった。舟出した弟子たちは一晩中、漕いだが、逆風のため漕ぎ悩んでいた。明け方、主イエスは湖の上を歩いて、弟子たちに近づいてこられた。彼らは幽霊だと恐れ、大声をあげた。主イエスは「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない」と言われ、舟に乗り込むと、風は止んだ。弟子たちは非常に驚いた。

マルコ福音書より十数年後に書かれたマタイ福音書に、平行記事があり、そこに興味深い記述がある。湖の上を歩かれるのが主イエスだと知ったペトロは「主よ、あなたでしたら、わたしに命じて、水の上を歩いてそちらに行かせてください」と言った。「来なさい」と招かれ、ペトロは湖の上に足を踏み出した。すると、主イエスの方に歩いて進むことができた。主イエスと同じように、ペトロも水の上を歩めた。ところが、ペトロは強い風に気がつき、怖くなった。すると、ペトロはズブズブと沈みかけた。慌てたペトロは「主よ、お助けください」と叫んだ。主イエスは、すぐに手を伸ばして捕まえ「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」と言われた。そして、二人が舟に乗り込むと、風は止んだ。

マタイ福音書のペトロに関する記述は奇跡物語のメッセージを的確に伝えている。湖の嵐はカオス（混沌）で、主イエスはカオスを制して歩まれる方であると告知している。この方に信仰の目を向けていれば、カオスを超えて歩むことができる。嵐を見て恐れ、主イエスから目をそらしたペトロは沈み込んだ。しかし「主よ、助けてください」と叫べば、手を差し伸べ、カオスを静め、安全に導いてくださる。主イエスがあなたと共におられるから、あなたが遭遇している苦難を恐れることはない。主イエスによって乗り越えることができる。このメッセージは、私の身に起こっている確かな出来事である。